

摩周屈斜路トレイル（MKT）

摩周屈斜路トレイル（MKT）では、阿寒摩周国立公園北部のダイナミックな景観を堪能することができます。このルートは、火口湖、溶岩ドーム、そして天然の温泉へと通じています。また、アイヌの重要な集落である屈斜路コタンや、19 世紀末に天然の硫黄が採掘されていた硫黄山なども通ります。摩周屈斜路トレイルは、通常 3～4 日で歩くことができます。

MKT ルート

61 キロある MKT は、摩周湖を見下ろす摩周カルデラから、屈斜路カルデラの西側周辺の山々にある美幌峠を目指します。途中では、屈斜路湖を見渡すことができます。摩周カルデラからは、美留和へと降ります。それから、アトサヌプリ火山複合体を周って川湯温泉リゾートを通り、屈斜路湖の東側に到達します。ここから、屈斜路湖の東側、南側、そして西側の湖岸を回ります。途中で、アイヌの歴史と文化にゆかりのある天然温泉や、彫刻や伝統的な刺繍などのアイヌ文化プログラムを提供する場所、ガイド付きカヌーツアーの開催地を通り過ぎます。

美留和から屈斜路湖西側にかけての MKT の大部分は比較的平坦で、標高の変化はほとんどありません。トレイルの終盤は湖畔の西側を通り、屈斜路カルデラから美幌峠へと内側斜面をくねくねと進みます。ルートの途中にある展望台からは、屈斜路湖が一望でき、東方面には屈斜路カルデラを

見ることができます。

ゲストハウス、温泉宿、テントや寝袋のレンタルを行っている湖畔のキャンプ場など、トレイルの途中には宿泊施設も用意されています。

摩周湖

MKT の入り口は、摩周カルデラの中にある摩周湖を見渡せる場所にあります。摩周湖の深く澄んだ水は鮮やかな青色で、東側の摩周岳が湖面に反射して見えることもよくあります。カムイヌプリというアイヌの名前でも知られる摩周岳は、カルデラ周縁の中でも一番高い山です。摩周湖は雨が水源であり、放水口がありません。摩周湖へ降りることはできませんが、展望台からその景色を楽しむことができます。

屈斜路湖とアイヌの伝統

屈斜路湖の面積は 79.3 km^2 で、日本最大のカルデラ湖です。30 万年以上前に始まった一連の大規模噴火により形成した巨大なくぼみ（ $20 \times 26 \text{ km}$ ）である屈斜路カルデラの西側半分の大半を占めています。

アイヌの集落は、人々が狩猟採集をし、釣りをしていた屈斜路湖の湖岸で繁栄しました。MKT は、

摩周湖のそばにある天然温泉・池の湯を通り過ぎます。ここ池の湯では昔、アイヌの人々は沐浴をし、そのぬるま湯に樹皮を浸し、織物用の靱皮繊維の糸を作っていました。摩周湖南端近くのアイヌの村・屈斜路コタンには、屈斜路コタンアイヌ民族資料館があり、工芸品や展示を通じてアイヌの人々の伝統な生活様式が伝えられています。屈斜路コタンから数キロ離れた屈斜路湖の南部に突き出た和琴半島は、かつてアイヌの人々が鹿狩猟を行っていた場所でもあります

自然遊歩道と多様な景観

MKT では、森林地帯や溶岩ドームを通る自然遊歩道が枝分かれしています。つつじヶ原自然探勝路は、アトサヌプリ火山複合体の一部である硫黄山と川湯ビジターセンターをつなぐ散策路です。植物は、山の麓にある背が低くゴツゴツしたカサマツや耐寒性のラブラドルチャから、ビジターセンター付近の背が高く緑豊かな針葉樹や広葉樹まで、トレイルに沿って変化していきます。仁伏半島自然遊歩道は、トドマツやカツラがそびえ立つ森の中を通り、屈斜路湖の東岸の砂浜に沿って伸びています。和琴半島自然探勝路は、樹木が生い茂る和琴半島を一周するルートで、野鳥や野生の花々を数多く目にすることができます。

硫黄山と硫黄採掘

ごつごつした硫黄山周辺の多数の明るい黄色い噴気孔からは、蒸気や火山ガスが 上がっています。もともと植物があまり生えていないため、硫黄山は、現地のアイヌ語で「裸の山」を意味するアトサヌブ

りと呼ばれています。黄色い噴気孔は硫黄によるもので、硫黄山の名前の由来にもなっています。19世紀末以降、ここでは硫黄が採掘され、鉱石産業は経済成長を促し、この辺りの発展に貢献しました。MKTの一部は、硫黄山で採掘された鉱石の輸送に用いられていた古い鉄道に沿っています。硫黄山レストハウスには、ここで稼働していた機関車の1つの1:3縮尺模型があり、この辺りの硫黄鉱石採掘の歴史に関する展示が用意されています。

動植物

屈斜路湖の湖畔と屈斜路カルデラの森林地帯には、豊かな植物が生えています。森林の大半は、トドマツやエゾマツなどの針葉樹や、オヒョウ、モンゴリナラ、シナノキといった広葉樹が混在しています。野草は4月には開花し始め、9月まで一定の種類の花が咲いています。人気の花々は、早春に咲く青いキケマンや、初夏に咲く白いハナミズキ、そして真夏には、クリーム色の緑がかった白いトランペット型の花を咲かせる高さ2メートルのハート型のユリなどのいろいろなユリ科の植物などが挙げられます。

トレイル沿いでは、たくさんの野鳥の鳴き声や姿を確認することができ、特に春と秋には水鳥が頻繁に屈斜路湖に集まってきます。留鳥の中にはクマゲラ、エナガ、カケスなど、渡り鳥の中にはカワセミ、オオハクチョウ、センダイムシクイなどがいます。森林地帯へと歩みを進めていくと、エゾリスを目にすることもあり、エゾジカやキタキツネなどの動物の痕跡も見つけることができるかもしれません。

MKT 沿いにあるビジターセンターでは、屈斜路地方の生物多様性に関する情報や、この地域のヒグマの活動に関する助言が提供されています。ヒグマとの遭遇を避けるため、ハイキングの際は必ずクマよけ鈴を携帯しましょう。